

科学者委員会 学術の大型研究計画検討分科会

総合工学分野の大型研究計画評価小分科会（第1回）

議事要旨

日時 平成28年4月26日（火）13:00～15:00
会場 日本学術会議 6-A（1）会議室
出席者 川口委員、柴山委員、萩原委員、松岡委員、渡辺委員、荒川委員、柴田委員、矢川委員、吉村委員、新井委員（スカイプ）
陪席 日本学術会議事務局（石井参事官、大橋参事官付、大庭参事官付）

配布資料

- | | |
|-----|---------------------------------------|
| 資料1 | 委員名簿 |
| 資料2 | 学術大型研究計画における審査・評価プロセスについて |
| 資料3 | 評価小分科会における審議事項等 |
| 資料4 | 第23期マスタープラン策定に係る利益相反に関する考え方 |
| 資料5 | 今後のスケジュール |
| 資料6 | 総合工学分野の応募提案一覧・評価用紙【非公開資料】 |
| 資料7 | 第23期マスタープラン応募提案数 |
| 参考1 | 第23期学術の大型施設計画・大規模研究計画に関するマスタープラン策定の方針 |
| 参考2 | 公募要領 |
| 参考3 | 学術研究領域コード表 |

議 題

1) 役員を選任について

互選により、委員長として荒川委員が選出され、副委員長として渡辺委員が、幹事として松岡委員、萩原委員がそれぞれ指名され、出席委員から承認された。

2) 評価小分科会における審議事項等

学術の大型研究計画検討分科会委員でもある柴山委員より、資料について説明があった。引き続いての質疑応答において、同じ区分Iで公募した

にもかかわらず、融合領域を選択した提案のみが絶対評価を受けることの正当性が一貫性・公平性の観点から不明確、などの指摘がなされた。

3) 利益相反についての考え方の確認

学術の大型研究計画検討分科会委員でもある柴山委員より、審査における利益相反についての考え方の説明があった。引き続いての検討の結果、本小分科会としては、各委員の科学者としての行動規範に則った自己判断に委ね、親委員会の求める「評価が利益相反の点から問題がないことの確認」は、次回小分科会で各委員の評価辞退の状況を出席者全員が把握することで、それに充てることとした。

4) とりまとめの審議の方法の決定

各委員による評価の後に行う、各委員の評価が利益相反の点から問題がないことの確認、区分Ⅰ（学術研究領域で融合領域（コード32-1、33-1、34-1）を選択した提案を除く）の順位づけ及び応募提案（区分Ⅱ）のコメント案のとりまとめについては、再度小分科会を開催して審議・決定することとした。

また、副分野を選択している提案について、副分野での評価を依頼するか議論し、計画No. 105については、電気電子工学分野に評価を依頼することとした。

5) 今後のスケジュール

資料に沿って確認が行われた。

今回は6月14日（火）15:00～17:00とすることとした。